

人間は皆悪いことをしてしまうようです。学生の頃、よくあった掃除当番のことを思い出してみましょう。小学校や中学校、高校生の皆さんは毎日学校の掃除があったのではと思います。掃除が好きな人はいません。きっと嫌だなあ、出来ればさぼってしまいたいなあと思いながらなさったのではないのでしょうか。そんなときにある人が、私は真面目に掃除をするよ、ちゃんと決まっていることだからね…、と言ったならば皆さんはどう思うのでしょうか。そうか自分もそうならなくてはいけないと思うのでしょうか。それともこの人はいい子ぶって嫌なやつだと思うのでしょうか。きっと後の方ではないのでしょうか。私達は正しいことはわかっている、なかなか正しく出来ないのです。そして正しくやろうとする人を見ると嫌に思ったり、煙たくなってしまいます。掃除をしたくない、なんとかしてさぼりたいと思う友達がいたらほっとしたり、嬉しくなってしまう、私達はそういう人間なのです。子どもの頃、大人になればそういうことはなくなって正しいことしかしなくなると思っていたのかも知れませんが、大人はもっと誘惑も多く、正しい人が煙たくなります。私達は一生、正しい人を見ると嫌だ、そういう自分と戦っていかなければならないのです。

先ほどの福音書は私達が将来迎えられる天国についての例えでした。天国というのは上の方ではなく、神様がおられ、本当の楽園、悪いこともなければ死ぬこともない、そういうやがて私達が迎えられるところです。弱い私達はそういう正しいことが正しいとされ、悪魔の誘惑から解放されることを待ち望んでいるのです。主人が婚宴から帰ってきて僕たちに給仕をしてくれる。こう聞くと、なんか反対なのではないかと思えます。主人が帰ってきて、僕すなわち家来に食事の世話、給仕をするのならわかるけれども、なんで主人が家来の食事の世話をするのでしょうか。これは先ほど言った天国の情景を例え話で言っているのです。私達が天国に迎え入れられたら、主人すなわち神様が歓迎をしてくださるということなのです。そして神様は私達が天国に入れるよう、主イエス様を通してしてくださったということなのです。神様は私たちを愛してくださる。そして天国に来ることを望んでおられる、そのことが給仕をするという事で具体的に示されているのです。

私達は悪いことをする人を見るとほっとしたり、正しい人を見ると嫌になったりしてしまうような人間ですが、神様は私達がそういう弱い自分と戦って人生を送るならば、喜んで天国に入れてくださる、神様御自身が私達を歓迎して

くれるというのです。私達がどこかの大きな会社にお客さんで行ったとしましょう。社長さんが直々に迎えたり、お茶を入れたり歓迎してくれるでしょうか。まずそういうことはありません。偉い人は偉い人でないと会えないのです。しかし天国ではそういうことは一切なく、神様御自身が迎えてくださるということなのです。私達の社会では考えにくいですね。これだけでも天国が私達の今いるところとは大きく違って、本当にそうならいいと思うところなのがおわかりだと思います。

こうなると私達は天国にはいるためにどうしたらいいのだろうか大切なことになってきます。そこで先ほどの聖書をもう一度見てみましょう。腰に帯を締め、ともしびをともしていなさい。これは一晩中起きていなさいということではありません。私達のしていることは、すべて神様が見ておられる。人間は誰も知らない、自分しか知らないと思っても、神様は皆知っておられる、神様の目にみえないことは一つもないということなのです。

私達が何か悪いことをしたとしましょう。誰も気づきませんでした。そのまま注意を受けることもなく、ことは終わってしまいました。そういうとき私達は何か得をしたような気になったり、人生は真面目だけではだめだと思ったりします。そしてますます平気で悪いことをするようになっていきます。しかしいつもそうはいきません。あるときにうまくいなくて注意を受けたりしかられたりすると、これからはもうやめようと思うのですが、しばらくすればそれも忘れてまた同じことをしてしまふ。私達は皆そういう経験があります。しかし神様は見ておられます。人間にはわからなくても神様は全部見ておられます。天国には入れるように私達一人一人を見ておられるのです。私達はそれを十分に知って神様を悲しませないように自分で気を付けなくてはなりません。目を覚ましていなさいとはそういうことであつたのです。私達の心に神様がいつも見ておられるということをしつかりとおいて、毎日を過ごしていきましょう。